

## 授業設計に役立つ教材分析の手法

### -構造図分析と教室活動分析-



4月15日(土)高雄会場・16日(日)台北会場  
14:00~17:00(3H)

柴原智代(国際交流基金 日本語国際センター)

1

## 0. グループ作り (10分)

- 二人で、折り紙の3/4の、さらに、2/3の部分に斜線をひいてください。
- いろいろなやり方があるので、二人でアイデアを出し合ってください。
- できたら手を上げてください。



2

## 1. イントロダクション (5分)



- P1陳先生とミッションを読んでください。

- 今日は、ある架空の課題を通して、**私たちが提案する教材分析の手法**を体験していただきます。

- グループの人と楽しく交流しながら、課題を進めてください。



3

## 2. 従来の教材分析の方法 (2分)

既存教材を分析し、コース目標にあうように主教材または補助教材を作成する。

↓  
とりあえず  
作ってみる

↓  
何が不十分なのか  
客観的に把握する

↓  
新たな手法の必要性: **可視化・構造化**

4

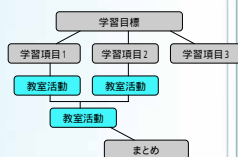
## 教材分析手法(1)(2)

### (1)教材構造分析

- 1課の全体像を可視化・構造化
- 教室活動の関係と配列の把握
- 課の構成を学習/認知過程にそって考察可能

### (2)教室活動分析

過程・インタ-アクション・内容  
の3点からの詳細分析

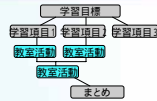


5

## 3. 教材構造分析 (90分)

6

### タスク1 (20分)



- (1) 1課を構成する要素を抽出する。  
本日は、キット使用
- (2) 学習目標ごとに構成要素を分類し、教室活動の関係性を考えながら配列し、構造図を作成する。

気づいたことを話し合ってください。

7

### 分析の結果

- 提出順通りには教えられない。
  - 学習目標に対して、練習が不均等である。
  - 構成要素間の関係性がわかりにくい。
- 指導方略や学習過程に照らして、  
教師が教材を再構成して教える必要がある。
- ・ 補助教材を作成
  - ・ 授業を工夫
  - ……授業設計に役立つ

8

### タスク2 (20分)

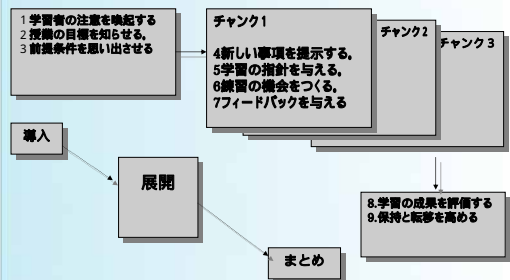
- (3) ガニエの9教授事象(P4)を参照しながら、学習目標と教室活動を分析・考察する。

構成要素が導入・展開・まとめの三段階のどの段階に分類されるか考えてみましょう

『新日本語の中級』に入っていない事象はどれですか。

9

### 指導方略: ガニエの9教授事象 P4



10

### タスク3 (30分)

- “Expressions” Unit13をグループでやってみてください。

- 『新日本語の中級』と比べて、気づいたことを話してください。

SLAの学習過程

11

### SLAの学習過程のモデル(1)

Nunan(1989)

Processing(認知/理解) Productive(産出/練習) Interaction(相互作用)

#### <Processing(認知/理解)の教室活動例>

- 1. テキストを読む、聞く。(特に反応はさせない)
- 2. テキストを読む、聞く。そして、音声によらない身体的な反応をさせる。(例 学習者はキーワードを聞いたら手を上げる)
- 3. テキストを読む、聞く。そして、音声によらない身体でもない反応をさせる。(例 学習者はキーワードを聞いたらチェックボックスにチェックする)
- 4. テキストを読む、聞く。そして、音声による反応をさせる。

・ キューを聞いて答える  
・ ロールプレイやディスカッションなど

12

## SLAの学習過程のモデル(2)

Van pattern(1993)



Focused Practice



Processing Mechanism

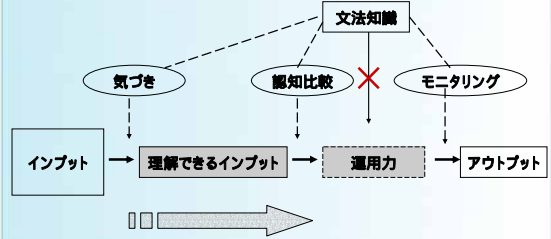
Accommodation, restructuring

Focused Practice

13

## SLAの学習過程のモデル(3)

Ellis(1989)



14

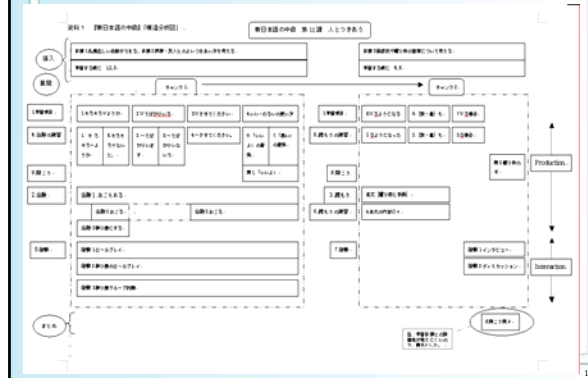
## タスク3 (続き)

### ■解答サンプル1.2 配布

■二種類の構造図を比べて違いを話し合ってください。

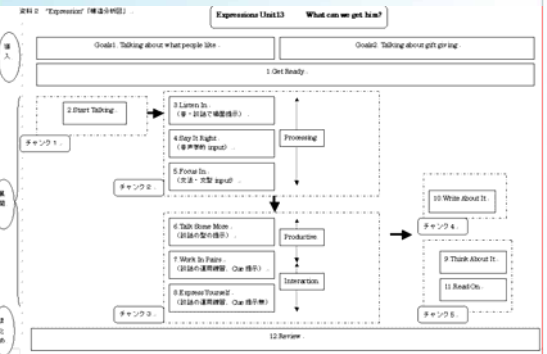
15

## 構造図『新日本語の中級』第11課



16

## 構造図:Expression Unit13



17

## 構造図2つとその比較/分析

	学習目標と教室活動の論理的な構造	教室活動の配列と関係	ガニエの9教授事象及びSLA研究の学習過程からの考察
新日本語の中級	学習目標は明示、活動の目的は非明示	各教室活動が関連づけが、独立している	教材の配列と学習過程が一致していない。(教師の裁量に任されている)
Expressions	学習目標・活動の目的が明示的	教室活動間の関連づけが明示的	教材の配列と学習過程がほぼ一致している、意味理解 産出機会 interactionとなっている。

18

### タスク4 (20分)

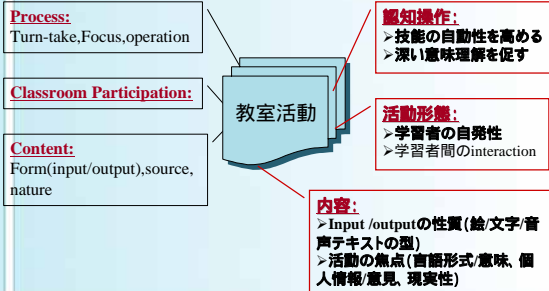
- 『新日本語の中級』に入っていない事象については、教師が補助教材を作ったり、授業のやり方を工夫したりして、補う必要があります。
- グループでアイデアを出して、ふせん紙に書いて、はってください。
- 両隣のグループと意見交換。

19

### 4. 教室活動分析 (25分)

20

### 教室活動分析 (Littlejohn :1998)



21

### タスク5(20分)

- P7の「教室活動分析」の続きをグループでやってみましょう。
- 解答サンプル3.4 配布

22

### 教室活動分析の比較/分析

	過程	誰と誰がするのか	内容
新日本語の中級	自動化を高める活動が多い	学習者が与えられた形式で答える活動が多い。	インプットは文字情報が多く、談話レベルが少ない、現実社会の生の情報が提供されていない。
Expression	深い意味理解を促す活動が豊富	学習者が与えられた形式で答える活動の後に、自発的に答える活動に移行する。	インプットは、文字/音声/絵・図形など多様。現実社会の生の情報が提供され、個人情報/意見を活用する機会も多い。

23

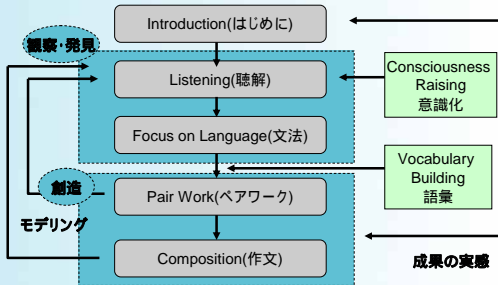
### Unit format of "Expression"(Nunan)

- ✓ Schema building (スキーマ活性化)
- ✓ Transparency (透明性)
- ✓ Consistency (タスクの流れが一貫していること)
- ✓ Receptive vs Productive skill
- ✓ From Formulaic to Creative Language Use
- ✓ Task Dependency (教室活動間の従属関係)
- ✓ Focus on Strategies
- ✓ Inductive vs Deductive Learning
- ✓ Personalization
- ✓ Form and Meaning
- ✓ Authenticity

教育効果の普遍性を保証

24

## ジェイ・ブリッジ(小山悟、2002)



25

## 5. まとめ (15分)

26

### タスク7(5分)



- 二つの分析方法によって、『新日本語の中級』の問題点が明らかになりました。
- 陳先生は、『新日本語の中級』を採用すべきでしょうか。

27

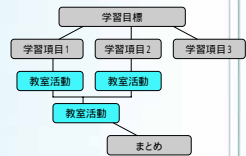
## 教材分析手法(1)(2)

### (1)教材構造分析

- 1課の全体像を可視化
- 教室活動の関係と配列の把握
- 課の構成を学習/認知過程にそって考察可能

### (2)教室活動分析

過程・インターアクション・内容  
の3点からの詳細分析



28

## 評価(1) 自分の学びを評価する

指標: 4.理解できた、3.やや理解できた、  
2. やや理解できない、1. 理解できない

### < 構造図分析の手法 >

- 教材の構造を構造図で視覚的に捉えることの利点
- 作成手順
- 読み取り方

### < 教室活動分析の手法 >

1. 教室活動分析表による分析の利点
2. 記入方法
3. 読み取り方

29

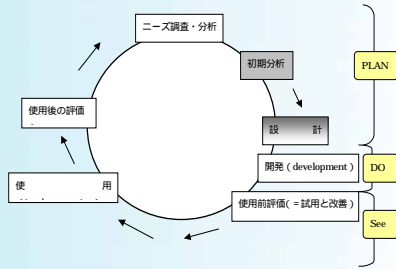
## 評価(2) 手法を評価する

指標: 4.強く思う、3. そう思う、 2. あまりそう思わない、  
1. そう思わない

- 日本語教材の教室活動の構造を可視化することは必要だと思いますか。
- 構造分析は日本語教材の1課の構造を把握できると思いますか。
- 教室活動分析図は、日本語教材の教室活動の内容と構造を把握できると思いますか。
- このWS後独力で「構造分析」「教室活動分析」ができますか。

30

## 教材分析から教材作成へ P10



31

## これからの教材に求められるもの

1. 学習目標を達成するために最も有効である学習過程に沿った設計を行い、それを教材の構成に反映させる。
2. 教師が言語能力の概念から教授法、評価法にいたる一貫性のあるビジョンを明示的に一貫性をもった形で教材に埋め込む。  
( = 学習者の立場に立ち、普遍的な学習効果を生み出す教材の開発 )

32

## 教師の専門性や経験の持つ意味

1. 新人でも一定水準の教育を保証することができる。専門性の高い教師なら、それ以上の学習を保証することができる。
2. 教師には、異なる教育現場において、学習者の反応に応じて柔軟に対応し、瞬時に決定する能力が不可欠である。
3. 個々の学習者の学習を継続的にモニター(監視)し、学習上の問題を認識・分析・解決する能力が重要である。

33



34